第４編　成 果 と 課 題

【　目　次　】

第１章　　沼田市教育行政方針評価（学校教育）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３７

第２章　　第１３次教育水準向上研究＜第２年次＞の成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４２

令和７年度の研究指定等　・・１４３

編　集　後　記　・・１４３

令和７年度沼田市教育行政方針評価（学校教育）

【評価について】
１ 評価者（全１２２名）
○各小中学校６名（校長・教頭・教務主任・研修主任・職員代表２名）
○各幼稚園　３名（園長・職員代表２名）
２ 評価項目
○全５０項目（沼田市教育行政方針「重点施策１」について）（前年度より１項目追加）
３ 評価方法
○自校・園の取組について「実現度」による評価
（４：できている　３：おおむねできている　２：あまりできていない　１：できていない）
４ 評価平均について　**太字…３．４以上**　網掛け…３．０未満　下線…前年度より上昇したもの

2.「基本方針1」(教育水準の向上を目指す学校教育の充実)について

教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
		4	3	2	1
一人一人のよさを大切にし、社会の変化に主体的に関わり、未来社会を切り拓く力を身に付けた子どもを育てるために、「第13次沼田市教育水準向上研究」(第1年次)を中心に、家庭・地域社会との連携を図りつつ、全市をあげて教育実践に努めます。	3.37	43.2%	51.5%	4.8%	1%
【参考R6　第1年次】	3.32	39.4%	54.1%	5.5%	1%

1.「重点施策1」について

(1)学校(幼稚園)経営の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	校長(園長)のリーダーシップによる経営方針の明確化と各主任を中心とした全校的な組織体制の確立	**3.70**	70.5%	28.7%	0.8%	0.0%
イ	「沼田市通学路安全プログラム」を踏まえ、家庭・地域・関係機関との連携や、「沼田市通学路見守りサポート」等の取組の推進、子供を守り育てる実効的な危機管理体制の充実（「セイフティ沼田」	**3.53**	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%
ウ	「勤務時間の適正な管理並びに総労働時間短縮のための指針」を踏まえ、教職員の働き方改革に向けた労働安全衛生管理体制の整備と具体的な取組の推進	3.14	29.5%	56.6%	12.3%	1.6%
エ	学びの連続性を踏まえた幼小中連携の充実（幼小中連携※）	3.12	25.4%	62.3%	11.5%	0.8%
オ	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進とカリキュラムマネジメントの充実	**3.53**	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%
カ	自校園の喫緊の教育課題解決に向けた校内(園内)研修の計画的な実施	**3.61**	62.3%	36.1%	1.6%	0.0%
キ	信頼される学校づくりのための教職員の資質向上と服務規律の確保	**3.66**	66.4%	33.6%	0.0%	0.0%
考察	７項目中５項目の評価平均が３．４を大幅に上回っている。また、６項目において全年度の評価より上昇していることからも、学校園経営の充実が伺える。特に、「ア」については、自由記述からも肯定的な回答が多数を占め、今年度も、校長・園長がリーダーシップを発揮して明確な経営方針を具体的に示し、各主任が中心となった組織的な取組を推進することができたと考えられる。「イ」については、今年度「セイフティぬまた」に熊等の出没事案に係る対応マニュアルを追加して、関係機関と連携を図りながら対応にあたった。「オ」と「カ」については、昨年度より大きく評価が上昇しており、確かな学力を身に付けさせるための授業改善等が推進されたことが伺える。「キ」は前年度に引き続き高い評価であり、各学校園が「信頼される学校」を目指して、教職員の資質向上や服務規律の確保に力を入れている成果と考える。					

（2）家庭や地域社会、関係機関等との連携・協働

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	家庭や地域社会と連携・協働した教育課程の編成・実施・評価（「社会に開かれた教育課程」の実現）	**3.57**	58.2%	40.2%	1.6%	0.0%
イ	各種教育活動における地域の人的・物的資源の積極的活用	**3.69**	68.9%	31.1%	0.0%	0.0%
ウ	不登校や問題行動、貧困問題などの生徒指導や特別支援教育等において、専門性をもった関係機関との連携や組織的・協働的な課題の解決	**3.54**	56.6%	41.8%	0.8%	0.8%
エ	学校及び地域課題の解決に向け、学校と地域がパートナーとして連携・協働するコミュニティ・スクールの取組の推進	3.38	42.1%	53.5%	4.4%	0.0%
オ	知的好奇心や興味・関心を高め、楽しく主体的に学ぶ活動の推進（「わくわくスクール沼田」※） 【今年度からの追加項目】	3.38	42.9%	52.9%	3.4%	0.8%
考察	全体的に高い評価となっている。「ア」「イ」については、全小中学校でコミュニティ・スクールの機能を生かして、地域の人的・物的資源の活用が積極的に図られてきている成果であり、関連して「エ」の評価が前年度より0.8ポイント上昇した。「ウ」については、関係機関などから専門的な助言を得るなど、各学校園ともに積極的な連携、課題解決に向けた組織的な対応を継続できている様子が伺える。「オ」は今年度からの追加項目である。ALTによる幼稚園での英語活動は、子供たちが英語に親しみをもったり興味を広げたりすることに効果的であった。					

（3）社会の変化に対応する教育の充実

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育の充実（キャリア・パスポートの活用）	3.03	20.5%	62.3%	17.2%	0.0%
イ	郷土の豊かな自然、先人たちが築いた歴史や文化に触れ、ふるさと沼田に誇りと愛着をもち、郷土愛を育む教育の推進（「ぬまた未来創造学」の推進※）	**3.49**	54.9%	39.3%	5.7%	0.0%
ウ	外国語指導助手（ALT）との生きたコミュニケーションにより、小学校から中学校への学びの連続性や指導の系統性を意識した、外国語活動及び英語科授業の充実と国際的な視野をもつ児童生徒の育成	**3.47**	49.1%	49.1%	0.9%	0.9%
エ	環境教育の視点を踏まえた体験的活動の実施と各教科等における指導の継続	3.09	21.3%	66.4%	12.3%	0.0%
オ	数値化して評価できる認知能力に加え、意欲やコミュニケーション力など数値化できない能力（ぬまたし力）も伸ばし、子供の力を最大限引き出す教育活動の研究・実践	3.20	27.3%	66.1%	5.8%	0.8%
考察	「イ」の「ぬまた未来創造学」については、本格実施から２年目となり、地域との連携だけでなく姉妹都市や小中間で連携するなど、工夫した授業づくりが推進された。教育研究所においても、７名の教諭が個人研究を推進した。「ウ」についても評価が上昇しており、今年度は中学３年生全員が授業の一貫としてオンラインによる国際交流事業を実施した。アンケートからも多くの生徒が積極的に交流できたことが分かり、国際的な視野を広げることに繋がったと考える。「オ」については、評価が低めではあるが、昨年度より上昇した。今後も非認知能力として提示した「ぬまたし力」の共通理解を図り、指定校である「沼田小学校」「池田小学校」の取組を参考に、取組を推進していく。					

（4）確かな学力の育成

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、子供たちの能力を最大限に引き出す授業の実践（提言「対話と交流」「個別最適な学び」	**3.40**	40.0%	59.1%	0.9%	0.0%
イ	各教科等において育成を目指す資質・能力を明確にして、内容や時間のまとまりを見通した単元や題材の構想	3.38	38.8%	60.3%	0.9%	0.0%
ウ	児童生徒にめあてと見通しをもたせたり、学びを振り返って次につなげたりする授業づくりを意識するとともに、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学習活動の充実（提言「魅力的な課題設定」）	**3.43**	44.8%	53.4%	1.7%	0.0%
エ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」及び現代的な諸課題への対応で求められる資質・能力の育成を図るための探究的な学習活動の充実	3.22	26.7%	69.0%	4.3%	0.0%
オ	1人1台端末等のICT環境を効果的に活用し、「分かる・できる・学び合う」授業の創造	3.24	29.3%	65.5%	5.2%	0.0%
カ	学力検査等の分析や日常の的確な実態把握に基づく、各教科における個に応じたきめ細かな指導の充実	3.34	36.2%	62.1%	1.7%	0.0%
キ	家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫と保護者との連携による「自律した学習者」の育成	3.01	18.1%	65.5%	15.5%	0.9%
考察	市教委が「2025学力向上対策」を掲げ、「先生の日」に市内全教職員に説明するとともに、学力向上対策フォーラムでは、その重点を指導主事から提言するなどして周知に努めたところ、市の方針に沿った組織的・計画的な研修や授業改善、学力向上対策が推進された。成果として、７項目中、５項目にわたり、前年度評価より上昇している。中でも「ア」「ウ」については、３．４ポイントを超える高評価となった。これらの項目には、提言で伝えた重点が含まれており、多くの小中学校の校内研修で取り入れられたばかりでなく、教育水準向上研究授業研究会の重点として一体的に取り組んだことにより、市全体で同じ方向を目指して授業改善を図ることができた成果と考える。自由記述からも、複数の学校から提言を意識して校内研修が推進された様子を伺うことができた。第３年次は、引き続き、市教委方針となる「学力向上対策」の共通理解を図り、より一層の充実が図れるように努めていく。					

（5）豊かな心の育成

No.	教育行政方針（評価の観点）	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備の推進と、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために道徳科の授業を要とした教育活動全体を通して行う道徳教育の推進	3.21	26.2%	68.9%	4.9%	0.0%
イ	「考え・議論する」道徳の時間の質的な充実に向けた指導の工夫	3.14	22.4%	69.0%	8.6%	0.0%
ウ	「沼田市人権教育推進方針」に基づく教育活動全体を通した組織的な人権教育の推進	3.34	36.9%	59.8%	3.3%	0.0%
エ	体験的な学習活動やボランティア活動を通して、互いに協力し合おうとする態度の育成を目指した福祉教育の推進	**3.41**	44.3%	52.5%	3.3%	0.0%
オ	「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を意識した特別活動の充実	3.17	24.1%	69.0%	6.9%	0.0%
カ	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる指導の充実（「SOSの出し方に関する教育」プログラム　の活用）（「児童生徒の命を守り、育てる教育」※）	3.39	42.6%	54.1%	3.3%	0.0%
考察	「ア」「イ」の「道徳教育」や「特別な教科道徳」については、昨年度から引き続き評価が下がっている。特に「イ」については、道徳の授業の資質向上を中心に充実に向けた取組が求められる。「ウ」の「人権教育」については、利南東小学校の「地区別人権教育研究協議会」の取組などを参考にして、人権週間の取組を工夫して取り組んでいることが自由記述から伺えた。「エ」「オ」「カ」については、昨年度より評価が向上した。「オ」については他の項目より低めではあるものの、昨年度より評価が高くなり、学級活動の授業改善等、特別活動の充実に向けた取組が推進されたことが伺える。「カ」については、「SOSの出し方に関する教育」を推進してる自由記述が複数の学校から見られた。					

(6)健やかな体の育成

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	子供の心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実、及び感染症対策の徹底	**3.63**	63.1%	36.9%	0.0%	0.0%
イ	栄養教諭等を活用した食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育の充実	3.26	36.9%	52.5%	10.7%	0.0%
ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	**3.54**	55.7%	42.6%	1.6%	0.0%
エ	中学校における部活動の適切な指導の実施と、「心＝道徳面」を重視した道徳的実践の場としての活動の充実(教育部活※)	3.39	44.9%	50.7%	2.9%	1.4%
オ	「部活動地域展開推進計画」を踏まえ、部活動の地域展開により、地域や学校の実情に応じた持続可能な環境の整備	2.53	14.7%	37.1%	34.5%	13.8%
カ	子供の危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進	3.37	41.7%	53.3%	5.0%	0.0%
考察	７項目中、全項目にわたり、前年度評価より上昇している。中でも「ウ」については、昨年度から約0.2ポイント上昇して高評価となった。これは、教科体育の充実に加え、業前や業間の時間を生かした運動の機会づくり、家庭との連携、学校保健委員会の取組など、各学校園で創意工夫をこらした取組がなされた成果と考える。「オ」については、昨年度から新たに項立てされたものである。他の項目より低めではあるものの、昨年度より評価が0.2ポイント高くなり、徐々にではあるが取組が推進・周知されたことが伺える。今後も引き続き、地域や学校の実態に応じた持続可能な環境の整備の推進が求められる。					

(7)生徒指導の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	日々の授業や行事など学校生活全体における、生徒指導の実践上の視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安心・安全な風土の醸成)を生かした指導・支援の充実	**3.61**	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%
イ	いじめ防止基本方針を踏まえた未然防止・早期発見・適切な対応・認知と解消の徹底及び児童生徒主体のいじめ防止活動の充実	**3.71**	71.3%	28.7%	0.0%	0.0%
ウ	不登校の未然防止や不登校傾向児童生徒への初期対応等、課題予防的生徒指導の徹底と関係機関との協働体制による教育相談活動の充実	**3.58**	58.2%	41.8%	0.0%	0.0%
エ	インターネットの利用にかかわるトラブルを防ぐ情報モラル教育の充実と家庭への啓発活動の推進(「沼田市SNSルール」※)	3.38	38.5%	60.7%	0.8%	0.0%
考察	今年度は、４つの全項目において前年度より評価が上昇していることから、学校園において管理職や生徒指導主事・主任を中心とした全教職員による組織的な対応、外部機関との連携、生徒指導提要を踏まえた指導・支援が推進されていることが伺える。「イ」「ウ」については、引き続き未然防止に努めていく。「イ」については、全項目中１番高い評価平均となり、学校園が意識を高めて指導に当たっていることが伺える。「ウ」の不登校においては、本市における喫緊の課題となっているので、教育支援センターやフリースクール等との連携を図りつつ、「Nプロジェクト」を踏まえ、児童生徒、保護者に寄り添った適切な対応を継続していく必要がある。「エ」については、年度当初の生徒指導主事・主任会議で新しい「沼田市SNSルール」について共通理解を図り、４月から各小中学校で改めて新しいルールに沿った指導を行ったことで、児童生徒や各家庭への周知が徐々に図られている成果と考える。					

(8)特別支援教育の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた中・長期的な支援の充実	**3.54**	54.9%	44.3%	0.8%	0.0%
イ	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制の強化と交流及び 共同学習の推進	**3.55**	57.4%	40.2%	2.5%	0.0%
ウ	通常学級における気になる子どもに対する指導の工夫と適切な対応	**3.48**	50.0%	49.1%	0.0%	0.9%
エ	一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行うための体制整備	**3.47**	47.9%	51.2%	0.8%	0.0%
オ	関係機関との連携を深め、教育支援委員会における教育支援及び就学指導の充実	**3.56**	55.8%	44.2%	0.0%	0.0%
考察	今年度は全ての項目において高い評価となった。特別支援教育コーディネーターが中心となり、日々の情報共有と共通理解が図られているとともに、校内教育支援委員会の計画的な実施、必要に応じたケース会議の開催、外部機関との連携、研修の実施等により、組織的な支援の充実が図られている様子が自由記述にも多く挙げられている。中でも、前年度評価が低めであった「ウ」「エ」については、大きく上昇した。特別な支援を必要とする幼児児童生徒は増加傾向にあり、その支援の仕方について課題を抱えている学校園が増えている中、市教委においては教職員や支援員向けに、個々の障害への理解、適切な対応や支援の方法などについての教職員研修を実施した。学校園においても、個別の支援体制の強化に向けた取組の充実が図られたことが伺える。また、巡回通級指導の研究指定校であった沼田中の取組から刺激を受け、市全体の特別支援教育に係る理解が深まり、充実に向けた機運が高まった。					

(9)読書活動の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	学校や家庭における読書習慣づくりの推進及び読書活動の充実(「家族で本を読みましょう」※)	3.02	22.1%	59.0%	17.2%	1.6%
イ	図書資料を利活用した学習活動を充実させるための学校図書館の充実と、沼田市立図書館との連携による本に親しむ環境整備	2.96	20.5%	56.6%	21.3%	1.6%
考察	評価平均は低い状況が続いている。自由記述からは、朝読書の継続、教職員や図書委員会による本の紹介やイベントの開催、保護者やボランティアによる読み聞かせ、家庭との連携、図書室の整備、沼田市立図書館の移動図書の活用等、各学校園の実情に応じた工夫や継続した取組により成果を上げている学校園が見られる。特に、幼稚園においては評価が3.4を大きく上回る高い評価となっており、幼児や保護者への絵本の貸出の仕方を工夫したり絵本部屋の環境整備をしたりするなど積極的な取組が推進された。引き続き、各学校の状況や発達の段階に応じて、児童生徒の主体的な読書活動を支援していく必要がある。					

(10)教育研究所の充実

No.	教育行政方針(評価の観点)	評価平均	評価の割合			
			4	3	2	1
ア	第13次沼田市教育水準向上研究の具現化を目指した教師の資質向上に資するための実践的な班別研究の推進	3.36	38.8%	58.6%	2.6%	0.0%
イ	不登校や障害等、発達の課題を抱える子どもやその保護者に対する教育相談の推進と関係機関との連携	**3.51**	51.1%	48.9%	0.0%	0.0%
ウ	教育支援センター「きずな」や「ことばの教室」における各校園との連携を生かし、多様なニーズに対応した適切な支援体制の充実	**3.41**	42.0%	56.5%	1.4%	0.0%
考察	「ア」においては、前年度とほぼ変わらない評価となった。個人研究初年度として、７名の教諭がぬまた未来創造学の研究を推進した。（３）「イ」の本格実施２年目となるぬまた未来創造学に関する項目の評価も上昇していることから、研究所での個人研究が各学校での取組に生かされていることが伺える。「イ」「ウ」については、自由記述からも、学校の状況を踏まえた対応、児童生徒の実態に応じた柔軟なきめ細かな支援、保護者への適切な助言や支援がなされ、「きずな」が児童生徒が安心して過ごせる場所となっていることが伺えた。					

第１３次沼田市教育水準向上研究（第２年次）の成果と課題

【評価平均について　　太字…３．４以上　　網掛け…３．０未満　　下線…前年度より上昇したもの】

１　評価結果

領域	教育行政方針との関連No.		学校教育の重点	評価平均	評価の割合			
					4	3	2	1
確かな学力	4	ウ	学習の基盤となる「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力等」や現代的な諸課題に対して求められる資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。特に、市教委作成の「学力向上対策」について全ての教員で共通理解を図り、「学び合い」と「振り返り」を大切にした授業の質的改善を目指す。	**3.43**	44.8%	53.4%	1.7%	0.0%
	4	エ		3.22	26.7%	69.0%	4.3%	0.0%
	4	ア	一人一台端末等のICT環境を効果的に活用し、子供たちの能力を最大限に引き出す授業を行い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	**3.40**	40.0%	59.1%	0.9%	0.0%
	4	オ		3.24	29.3%	65.5%	5.2%	0.0%
	4	カ	学力検査等の分析や日常の的確な実態把握に基づく、各教科における個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。	3.34	36.2%	62.1%	1.7%	0.0%
豊かな心	5	ア	道徳教育推進教師を中心とした指導体制の整備の推進を図り、教育活動全体を通じた道徳教育及び「特別の教科　道徳」の充実に努める。	3.21	26.2%	68.9%	4.9%	0.0%
	5	イ		3.14	22.4%	69.0%	8.6%	0.0%
	3	イ	「ぬまた未来創造学」を踏まえ、生活科や総合的な学習の時間を中心に、各学校で地域の伝統文化や歴史を学び、豊かな自然に触れる学習を計画的・系統的に実施し、子供たちが郷土を知り、郷土を誇りに思う心を育む。	**3.49**	54.9%	39.3%	5.7%	0.0%
	5	ウ	児童生徒が多様性を認め合う人権教育の充実を図るとともに、社会で自立するための基礎的な能力や態度の育成に努める。	3.34	36.9%	59.8%	3.3%	0.0%
健やかな体	6	ア	心身の健康の保持増進を図るための健康教育の計画的な推進と充実及び感染症対策の徹底	**3.63**	63.1%	36.9%	0.0%	0.0%
	6	ウ	「体力向上プラン」を踏まえ、教科体育を核とした運動やスポーツに対する関心や意欲の向上を図る取組の推進	**3.54**	55.7%	42.6%	1.6%	0.0%
	6	オ	中学校における部活動の適切な指導の実施及び地域や学校の実情に応じた持続可能な地域展開の推進	2.53	14.7%	37.1%	34.5%	13.8%

２　結果の考察

（1）確かな学力

第13次沼田市教育水準向上研究の第２年次として、学校教育課からの方針となる「2025学力向上対策」を掲げ、全小中学校と共通理解を図りながらスタートを切った。「先生の日」に市内全教職員に説明するとともに、学力向上対策フォーラムでは、その重点「魅力的な課題設定」「対話と交流」「個別最適な学び」を指導主事から提言するなどして周知に努めたところ、市の方針に沿った組織的・計画的な研修や授業改善、学力向上対策が推進された。成果として、５項目中、４項目にわたり、前年度評価より上昇している。中でも1つ目と3つ目の項目については、3.4ポイントを超える高評価となった。これらの項目には、提言で伝えた重点が含まれており、多くの小中学校の校内研修で取り入れられたばかりでなく、教育水準向上研究授業研究会の協議の視点に重点を充て（「魅力的な課題設定」「対話と交流」）、統一して取り組んだことにより、市全体で同じ方向を向いて授業改善を図ることができた成果と考える。第３年次は、引き続き、学校教育課からの方針となる「学力向上対策」の共通理解を図り、より一層の充実が図れるように努めていく。

（2）豊かな心

１つ目や２つ目の項目については、昨年度から引き続き評価が下がっている。特に２つ目の項目については、道徳の授業のさらなる「充実」に向けての取組が求められる。３つ目の項目については昨年度より評価が高くなっている。「ぬまた未来創造学」は本格実施から２年目となり、姉妹都市や小中間、また地域と連携するなど、工夫した授業づくりが推進された。教育研究所においても、７名の教諭が個人研究を推進した。４つ目の項目については、利南東小学校の「地区別人権教育研究協議会」の取組などを参考にして、人権週間の取組を工夫して行い、充実に努めている。

（3）健やかな体

全項目にわたり、前年度評価より上昇している。中でも２つ目の項目については、昨年度から約0.2ポイント上昇して高評価となった。これは、教科体育の充実に加え、業前や業間の時間を生かした運動の機会づくり、家庭との連携、学校保健委員会の取組など、各学校園で創意工夫をこらした取組がなされた成果と考える。３つ目の項目については、昨年度から新たに項立てされた「部活動の地域展開」に関するものである。他の項目より低めではあるものの、昨年度より評価が0.2ポイント近く高くなり、徐々にではあるが取組が推進・周知されたことが伺える。今後も引き続き、地域や学校の実態に応じた持続可能な環境の整備の推進が求められる。

令和７年度の研究指定等

指定・委託元及び年度	事　業　名	学校名等
令和７年度 文部科学省	発達障害のある児童生徒等に対する支援事業	沼田中学校
令和７年度 群馬県教育委員会	人権教育研究指定校事業	利南東小学校
令和７年度 沼田市教育委員会 ※群馬県教育委員会 研究協力校	非認知能力育成に向けたモデル校による実践研究	沼田小学校 池田小学校

編　集　後　記

本年度も、多くの皆様に御協力をいただき、本研究紀要をまとめることができました。心より感謝申し上げます。

本年度は、第13次沼田市教育水準向上研究の２年次として、研修主題である「社会の変化に主体的に関わり、未来社会を生き抜く力を身に付けた子供の育成」の具現化に向け、各学校・園において様々な取組が進められました。教育長より示された沼田市教育委員会グランドデザインを共通の拠り所としながら、各研究部会の取組、研究指定校の実践、教育水準向上授業研究会、校内・園内研修等を振り返りますと、子供たちのよりよい成長を願い、教職員一人一人が教育課題に真摯に向き合い、創意工夫を重ねてきた歩みが感じられます。

特に、確かな学力の育成に向けては、「対話と交流」を意識した授業づくりがさらに定着し、子供たちが自分の考えを表現し、他者の考えを受け止めながら学びを深めていく姿が多く見られるようになりました。また、「ぬまた未来創造学」をはじめとする地域とつながる学習の充実により、子供たちが地域の人々や自然、文化に目を向け、主体的に関わろうとする姿勢も着実に育まれてきています。加えて、学力向上対策フォーラムや沼田市教志塾「言向和平」、スキルアップ研修等、各種研修を通して、多くの先生方が校外の取組にも目を向け、新たな気付きを得たり、自らの指導を省みながら主体的に改善したりする様子が見られました。学校・園の枠を越えて学び合い、語り合う教職員の姿からは、「学び続ける教職員集団」としての確かな広がりを感じることができます。

これらの取組を通して得られた成果とともに、今後の課題を明確にし、次年度以降の実践へとつなげていくことが重要であると改めて感じております。社会が大きく変化する中にあっても、子供たち一人一人が自ら考え、他者と協働しながら未来を切り拓いていけるよう、私たち教職員が挑戦を続け、子供の可能性を信じて支えていく姿勢を大切にしていきたいと考えます。

結びに、研究の主体となって熱心に取り組まれた各小中学校・幼稚園の皆様、研究推進委員会の方々、御指導・御助言をいただきました関係各方面の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げ、編集のまとめといたします。

令和８年３月　吉日
沼田市教育委員会
指導主事　荒木　崇史

＊本冊子は、沼田市 Web ページに公開しています。URL（https://www.city.numata.gunma.jp/）

沼　田　市　の　教　育
～ 学 校 教 育 編 ～
第 ５２ 集
（令和７年度版）

発　行　　令和８年３月吉日
発行者　　沼田市教育委員会
印刷者　　(株)新生孔版